

平成 30 年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 16	公益目的事業 19
主査名	大森宣暁 宇都宮大学大学院工学研究科球環境デザイン学専攻教授	
研究テーマ	少子高齢社会における夜の生活活動を支える都市と交通のあり方に関する研究	
<p>24 時間化した現代の都市においては、人々の生活の質を向上させる視点から、「住む」、「働く」、「憩う」、「往来する」という都市社会の 4 要素を、時間軸を考慮してバランスよく配置することが重要な視点であるものと考えられる。しかし、従来の都市計画は、昼間の都市活動を主たる計画対象とし、夜間の都市活動が幾分疎かにされてきた感が否めず、人々が、安全・安心・快適に、夜間の活動に参加できる環境が整備されているとは言い難い。申請者らは、昨年度までの研究プロジェクトおよび土木計画学研究発表会における夜の都市計画に関するセッション等において、夜の活動主体、夜の活動機会提供主体、夜の活動計画・管理・運営主体等、多様な関係者を交えて、人々の夜の生活活動における現状と課題等について議論を行い、都市・交通計画の分野における学術的な研究の必要性を再認識した。</p> <p>以上の背景から本研究は、人口減少・少子高齢社会において、全ての人々が安全・安心・快適に夜間の自宅内外の生活活動に参加でき、生活の質を向上させる環境整備に向けて、我が国の社会的文化的特性を反映した都市と交通のあり方について、幅広い視点から検討を行うことを目的とする。また、地方都市の衰退する歓楽街の活性化の可能性について、宇都宮市を対象としたケーススタディを行う。具体的な研究項目は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none">・夜の都市や交通に関する海外・国内の既存関連文献のレビュー・我が国および海外諸都市における、夜の活動主体、夜の活動機会提供主体、夜の活動計画・管理・運営主体等に関する事例調査・パーソントリップ調査、社会生活基本調査等の大規模データの分析による、夜の活動・交通実態の把握・人々の夜の生活活動の実態および意識に関する関係者へのヒアリングおよびアンケート調査・地方都市の歓楽街における土地利用・建物・店舗現況調査、地元住民／店舗経営者／来訪者／非来訪者へのヒアリングおよびアンケート調査		